

坂本 淳

(独) 国立高等専門学校機構岐阜工業高等専門学校 助教

死亡事故発生箇所における道路交通環境が高齢者の横断に及ぼす影響の分析

本研究は、近年増加している高齢歩行者が関与する死亡事故の対策に資するデータの取得を目的とし、高齢歩行者の死亡事故特性と横断行動特性を分析するものである。死亡事故データ（新聞報道および県警データベース）を分析した結果、高齢歩行者は非高齢歩行者と比較して、夕暮れ時とくに西日等で視認性が悪い場面で死亡事故に遭う傾向にあることがわかった。また、高齢歩行者の横断歩道横断時の死亡事故は横断歩道外横断と比較して、夜間、生活道路で発生する傾向にあることがわかった。さらに、ビデオカメラデータから横断歩道外横断について分析した結果、高齢歩行者は非高齢歩行者と比較して歩行速度が遅いにも関わらず横断のための判断基準は同じであり、しばしば接近車両の減速を必要とする危険性の高い横断挙動をとっていることがわかった。